

福崎君の ワカバの蔭から

福崎かずたろう

第2回 モラルと必要悪について

私はずるいことが嫌いです。大概の人はそうではないでしょうか。しかし、道路交通法を遵守しているかと問われれば、していないと答えなければなりません。大概の人がそうでしょうか？ 制限速度を守って市街地で30 Km/hで走れば、たちまち渋滞の元となるでしょう。本来、制限速度とは全車はその速度で走れば、安全であるという目安の速度であります。しかし現実ではほとんどの車が制限速度をオーバーしています。全車が（それを運転している人皆が）善者であれば、理想的な車の流れが実現するものでしょうか？

大阪の市内を走ればどこへ行っても通用する、とよく言われます。それほど大阪市内の交通マナーが悪いということを意味しているわけです。私は3年間、大阪市内を車で走っていていくつか気づいたことがあるのです。

ひとつめのモラルの低下について。現在、車の運転免許を所持している人の多くは教習所に通い必要な知識とモラルを学んできたはずなのですが、実際は実践されているのでしょうか。否であります。割り込み、追越し、不法駐車、歩行者軽視、クラクションの乱用と、枚挙にいとまがないくらい目に余ります。かくいう私も覚えがないわけではないのですが……。しかしなるべく人に迷惑をかけないように、ということは心がけてきたつもりです。

ふつう常識で考えて交差点の角で車を止めるでしょうか？ ドライバーは何をしているのかと見渡してみると、主婦同士でおしゃべりをしています。ええかげんにせえよ！でっせ。おしゃべりなら相手を車内に乗せて走りながらでも出来るだろうに。

交差点で信号待ちをしていると、前車の窓にはタバコを持った腕が伸び、道路を灰皿であるかのように使っています。そして最後はピッと……。痰を吐く奴もいます。大通りの信号の周辺はドライバーの捨てた空き缶でいっぱいです。これら全ては、ドライバーの道理も何もない自分勝手な所作によるものです。

こういった人間を見ていると、自分の周り以外は全然見えてないのではないかと、考えられないのではないかと、勘ぐってしまいます。こういった環境でこういった教育を受けてきたんや。

モラルは良識、法律ではありません。けれど、人の人格を最も如実に表わすものであるということを、ドライバーに限らずもう一度確認する必要がありますね。これを読んでいるあなた！ あなたもですよ、どうでっか？

次に必要悪について。現実問題として、市内の大通り、片側で3車線ほどある道路のことを考えてみましょう。深夜をのぞいて渋滞が尽きません、そこで自分勝手なドライバーは（マークIIやプレリウドなんかに多いですな）交差点前になるとさっと右折レーンに飛び込んで、そのまま交差点を直進して行ってしまいます。渋滞している直進レーンから、私を含む多くのドライバーは苦々しく見ているわけですけど。地方でこんなことやったら大鬻感でっせ。

しかし！ ですよ。さきに述べたモラルに照らすと、私はこういった行為を良いことだとは思いません。けれどこの例は「必要悪」であると考えています。

すべての直進車が直進レーンを走っていたら、今よりも渋滞はもっとひどくなるでしょう。直進車の一部が空いている右折レーンを走ることにより、道路の有効な利用、ひいては渋滞の緩和に役立っているのです。ですから私は無理に右折レーンを直進したりするなどは言いません。

だからといって右折レーン直進を勧めているわけではありませんよ、よくいるんです、へたなくせに先を急いで他車に迷惑をかけてる奴が。例を挙げると、右折に利用する車が、右折可信号が出ているにもかかわらず、赤信号で止まっている直進車のために右折できないとか、右折レーンで対向待ちをしている右折車を避けるために、直進レーンに割り込んでくるとか。こうゆうのは困りますね。必要悪どころか、かえって渋滞の原因となってしまいますから。なめらかな合流（割り込みではない）や進路変更が出来ないのなら、やるべきではないでしょうね。問題はそういった連中に自覚があるのかということですが・・・無いんでしょうねえ。

ですから全国の「OH! WOO!!」62万人の読者に私が言いたいことは、「よっぽど熟知した道路以外は真ん中を走れ！」ということですよ。真ん中を走ってさえいれば、右折レーンに巻き込まれることも路上駐車に行く手を塞がれることもあまりありません。ただし一番混みますから、時間はたっぷり見ておいたほうが良いでしょうね。

必要悪を自覚しながら、実行するのに見合うだけの運転技術がある人・・・、

いますかあ。

若気のいたりと申しますか、屈曲した正義感と申しますか、私は割り込み等は断じて許せないたちであります。ですからそういった輩を見かけると、私は極私的な制裁をくわえることもあります。後ろからあおるとか、前について急ブレーキをかけるとか……。我ながら大人げないなあと思いながらも、危険行為に走ってしまいます。目には目を、という奴でね。

ただやみくもに空いているレーンを走ってきてそこが行き詰まったら他のレーンに割り込んでくるような連中を、私はどうしても許せないわけですが、世の人には大きな心で許し、自車の前にいれてやるといった人もいますよね。大阪にも。

後ろから見てて分かるんです、車間を詰めて割り込みをさせないようにしようと思えば出来るのに、そうしない人。君子危うきに近寄らず、という風に最初から車間をあけて走っている人もいますけど、そうじゃなくて、技術はあるんだけど割り込みを許せる人。人間としてあこがれますねえ。そうゆうのを真にベテラン（ドライバー）って言うんでしょうね。私たちも早くそうなりたいものです。そう思いませんか。



能勢の千枚田

池田から綾部へと北へ向かう国道173号線は、道路改良で大きなトンネルが多くでき、かなり快適なドライブルートとなってきた。渋滞がなければ30分で、池田から能勢町内まで行ける。

能勢町内は、右も左も山であるが、小さな谷を見つけるたびに小さな集落がある、そういったところである。

能勢町の中心地、森上を過ぎてしばらくいくと今西集落があり、そこから今回の目的地、神山（こやま）長谷（ながたに）の集落へと向かう細道が別れている。入ると、いきなり急な坂道となり、左右には竹やぶが迫る。閉鎖された暗い視界を余儀なくされる。ギヤをセカンドにいれ、しばらくトコトコ登ると、坂の途中にいくつかの家屋が現われ、すぐ消えた。神山の集落であった。

竹林の中の暗い神山の集落を抜けると、いきなり視界が開け、逆光が差し込んできた。ほこりで汚れたフロントガラスは日光を乱反射し、前方が一瞬見えなくなるほどだ。減速して、目を細めて前を見ると、なんと山の中腹に出ている。

るではないか。開けた正面は谷地形になっており、谷向こうまで見渡せる。そして谷向こうまでの視界のすべては棚田（たなた）であった。

棚田は、田植前の状態で、水がきれいに張られていた。小さな田のひとつひとつが太陽光を反射して、こなごなになった鏡の破片のように見える。田毎の月という表現があるが、満月の夜に來ればそういった光景が見ることが出来るであろうと思われた。

急な山の斜面にむりやりと言った感じで棚田が続いている。道はそんな棚田を囲む様にして、谷の周囲をぐるりと回っている。道路が真っ直ぐに登ってこれないような斜面なのである。よくぞこんなところに田を拓いたと思う。減反政策は各戸持ち面積の何パーセントかを転作に充てるはずだから、こんな不便なところこそ畑に変えればいいと思えるのに、せつかく拓いた棚田を惜しむかのように転作はされていない。畑に変えてはご先祖様に申しわけ無いとでもいいたげである。

棚田の斜面を見おろすようにして、道は右回りにゆっくりと高度を下げていく。長谷の集落を過ぎ、どんどん高度を下げ、長谷口まで下りてくると、ちょうど棚田を囲んで一周する形になった。棚田を見上げると、その頭には先ほど通った道のガードレールが白く光って見えた。

